



工藤函館市長式辞

船客に「おもてなし」活動を行っている函館遺愛女子高等学校の吹奏楽局の記念演奏や来賓として地元国会議員からお祝いの言葉をいただき、最後にはくす玉が割られ着工を祝いました。

おわりに

本年中には現在の泊地水深－8m で受け入れ可能な



くす玉割りの様子

クルーズ船の入港に備え、鋭意岸壁整備を進めているところです。

函館市は、若松地区完成後の寄港数 70 隻を目指していることから、函館開発建設部は、工事安全と周辺環境の保全に万全を期し、1 日も早く施設を完成させるべく、事業を進めています。

■ 室蘭港ガントリークレーンの更新について

室蘭市 港湾部 港湾政策課

ガントリークレーン更新の経緯について

室蘭港は北海道南西部の内浦湾東端に位置し、内浦湾に向かって突き出した絵鞆半島により太平洋から遮蔽された入江を形成する、静穏度の高い天然の良港であります。

室蘭港では、ユニットロード貨物の輸送ニーズの高まりによって、平成 7 年には崎守地区にコンテナバースを建設、平成 9 年にはガントリークレーンを設置し、コンテナの積卸しを行ってきており、ガントリーク

レーンは釜山港とのコンテナ航路の運営に重要な役割を果たしてきました。

従前のクレーンは、昭和 45 年に横浜港本牧ふ頭で使用していた機種を平成 9 年に無償で譲り受けたものです。室蘭港に移設された時点で既に 28 年が経過しており、移設後、更に 18 年が経過し大切に使用してきたところではありますが、老朽化が顕著になり補修費用が増大してきたこと、部品の調達が困難な箇所が故障する可能性があること、使用不能となる可能性と隣り合わせの状況の中で、埠頭利用者から更新の要望が本格化したこともあり、平成 29 年度に更新致しました。



新旧ガントリークレーン（手前が新規）

更新の概要

新クレーンは、従前の 10 列 3 段積み(1 万 2 千トン級対応)から 13 列 5 段積み(3 万 2 千トン級対応)へ大型化し、それに伴い巻上・横行速度も向上させたことから、サイクルタイムも改善され、作業効率も高まりました。また、20ft・40ft の固定式スプレッドしか吊具が無い状態でしたが、伸縮式のスプレッドを 2 台、重量物用吊具の他に棒鋼の積込み用に使う専用の吊具

も製作し、室蘭の運用スタイルを加味した仕様となっています。

クレーンの配色について

航空法により、地表・又は水面から 60m 以上の物件は、総じて航空障害灯及び昼間障害標識を設置する義務が生じますが、一定の基準を満たすことにより設置義務の免除を受けることができます。

室蘭港のクレーン設置箇所は「当該物件の 2km の範囲内に当該物件の海拔高よりも高い山がある場合」に免除を受けられるという基準を満たしており、独自の配色を検討することになりました。

様々な配色を検討していましたが、当該設置箇所の陣屋崎守地区は、JXTG エネルギー(株)室蘭製造所があり、平成 26 年に集合煙突の塗り替えを行っています。マリンブルーを基調とした色彩は市民公募で決定した配色を採用おります。

この市民公募によって決定した景観と調和できるよう、新クレーンにおいても青を基調とした配色としました。

集合煙突はライトアップを行っており、工場夜景の



JXTG エネルギー(株)の集合煙突



工場夜景

一翼を担っておりますが、新ガントリークレーンに設置されている夜間作業時に使用する LED 歩廊灯を、室蘭の夜景観光の一助になればという思いから、夏季は 18 時～24 時、冬季は 17 時～24 時の間で点灯を行っております。

工場夜景と合わせて近接する国道 37 号線に架かる白鳥大橋もライトアップを行っており、幻想的な風景が見られます。

供用式典について

稼働開始に際しまして、平成 29 年 12 月 15 日に供用式典を執り行いました。当日は気温 2 度と寒一中、多くの港湾関係者にご出席いただき、無事に完成を祝うことができました。

日本で現存する最古のガントリークレーンは長い稼働期間を終え、平成 30 年 3 月末で解体されます。

最後に

平成 30 年 2 月 1 日(木)、室蘭港の国際コンテナ航路がこれまでの隔週運航が、2 月中旬から毎週運航となることが発表され、ガントリークレーン更新の効果が実った形となりました。

今後も新規航路の誘致や更なる増便を目指し、安定的な施設維持に努めて参ります。



供用式典の様子